

# 平成29年度名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))の概要①

- 本タイムラインは、施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水はいずれ発生するものとの認識の下、年超過確率1/200の降雨に伴って庄内川が氾濫することにより発生する名古屋駅地区の地下街における浸水による人的被害、施設被害等を軽減するため、台風の接近に伴い名古屋駅地区の地下街等管理者が行うべき防災行動を時系列にまとめたもの。
- 共通行動項目としては、浸水防止対策、早期退出の促進、営業に係わる判断、地下街等管理者(テナント含む)の完全退避から構成されており、気象・河川情報や名古屋市が地下街等管理者に提供する情報を踏まえて実施。
- 台風に関する愛知県気象情報を踏まえ、東海豪雨を超える降雨が予測される場合は、翌日営業中止の検討を開始するなど、万が一に備えた早目の判断を行うものとした。

## <平成29年度名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))3つのポイント>

### ①4つの共通行動項目

#### 1 浸水防止対策

→河川氾濫の前に想定される内水氾濫に備え、地下街等の入口に止水板や土のうを設置。

#### 2 早期退出の促進

→館内アナウンス等を活用し、来街者の地下空間からの早期退出を促進。

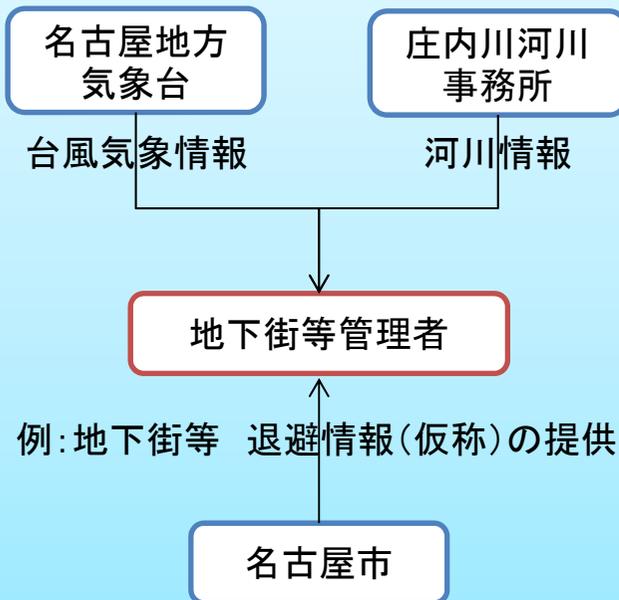
#### 3 営業に係わる判断

→営業の継続について検討・判断。営業停止後には地下通路の閉鎖も実施。

#### 4 地下街等管理者の完全退避

→営業停止後、最終的に地下街等管理者(テナント含む)が地下空間から完全退避。

### ②情報共有による関係者間の連携



### ③早目の判断

#### 台風気象情報

翌日以降に愛知県西部で東海豪雨を超える降雨が予測された場合



#### 地下街等管理者

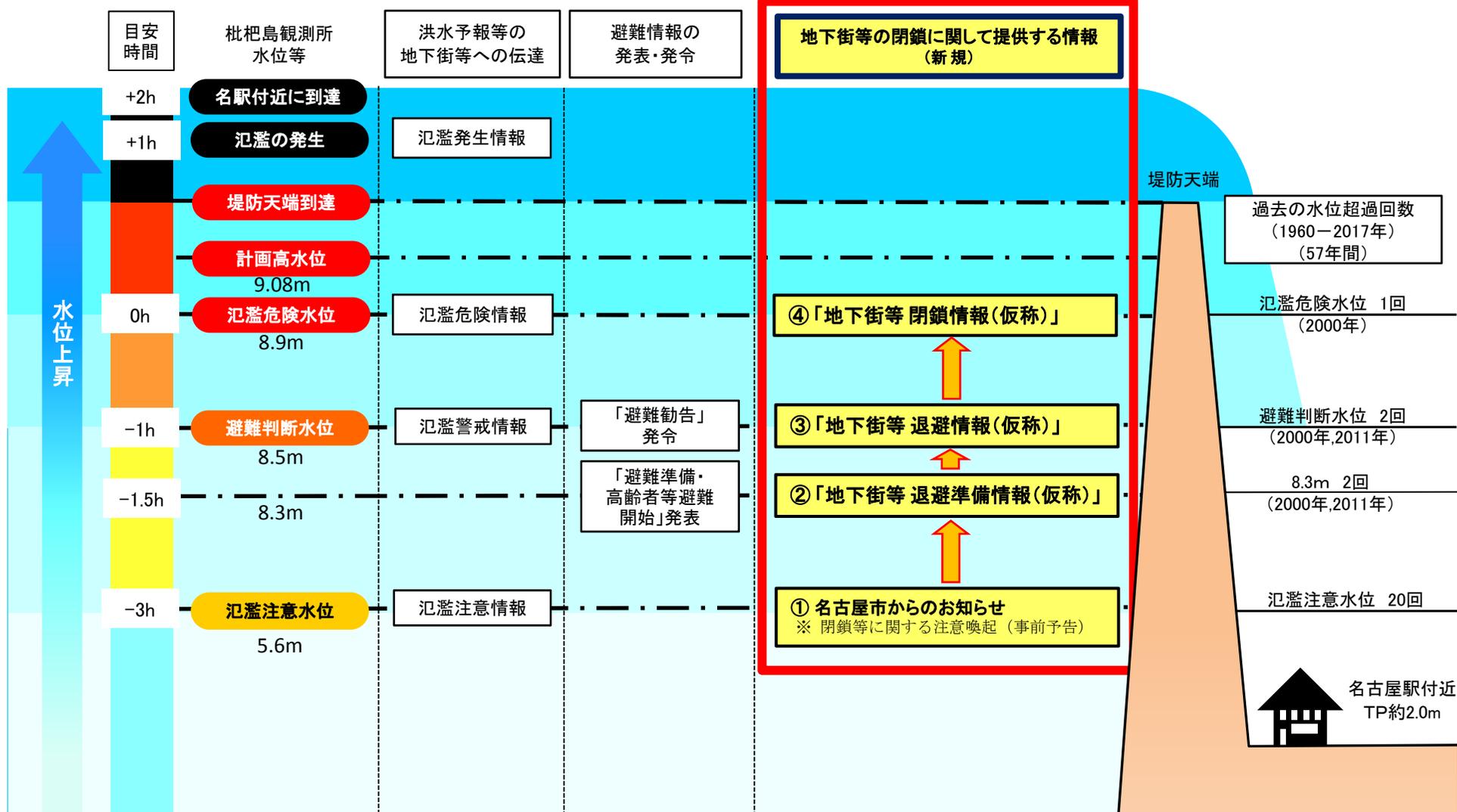
・翌日営業中止の検討開始

※これ以降、台風気象情報、河川情報、名古屋市から提供される情報を踏まえ、地下街等管理者の完全退避まで実施

# 平成29年度名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))の概要②

## 地下街等への新たな情報提供について(案)

### 名古屋市の対応



※ 名古屋市の避難情報は、上記の水位に到達し、かつ、その後の雨量、河川水位上昇等の予測を総合的に判断し、必要と認めた場合に発表、発令する。  
 ※ 水位については、枇杷島観測所の水位計の水位を表記しており、0.1mを加えるとTPIになる。

## 平成29年度名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))の概要③

- 翌日以降に愛知県西部で東海豪雨を超える降雨が予測(600mm/24h以上)されないかどうかによってシナリオを2つに分類(シナリオ1とシナリオ2)
- 『早い段階で名古屋圏域において東海豪雨を超える降雨が予測された場合(シナリオ1)』と『それ以外の場合(シナリオ2)』に分類し、タイムラインを2つに分岐する。

### <タイムラインステージ1>

台風進路予想で名古屋市が予報円内に含まれる場合 または 台風に関する愛知県気象情報で名古屋周辺への影響が予測される場合



### <分岐条件>

翌日以降に愛知県西部で東海豪雨を超える降雨が予測(600mm/24h以上)される※台風〇号に関する愛知県気象情報による

YES

### <シナリオ1>

#### <タイムラインステージ2>

- 前日時点で翌日の営業中止を検討

#### <ステージ3以降>

名古屋市が新たに提供していく情報に基づいて、防災行動を進める

- 地下通路の閉鎖準備の開始等

NO

### <シナリオ2>

#### <タイムラインステージ2>

- 気象情報の把握(営業停止については、以後の気象や水位状況により判断)

#### <タイムラインステージ2'> 愛知県西部に大雨警報

- 早期退出を促す取り組み(館内アナウンス等)

#### <ステージ3以降>

名古屋市が新たに提供していく情報に基づいて、防災行動を進める

- 営業停止の最終判断等